

# インバスコ 世界厳選株式オープン <為替ヘッジなし> (毎月決算型)

愛称「世界のベスト」。中身・押しポイント・分配金の本当の姿・リスク・将来性

作成 2026年9月26日 | 基準価額は9/25公表分、組入れは8月末の月報、株価・予想は9/25~26時点

## 結論(5つの要点)

- 1 中身は「替えのきかない世界の優良企業」約50社。3か国を結ぶ貨物鉄道、世界最大のカード決済網、航空エンジン、取引所など。金融・資本財・生活関連に分散し、IT(情報技術)は11%。日本株はゼロ、英国が23%。
- 2 推しは「成長の割に割安」と「AIに偏らない分散」。組入れ企業の株価は予想利益の15.7倍で、利益は年16%伸びる予想。AI・半導体株が急落した2026年6~7月も+4.8%と、下げに強い面を見せた(4~5ページ)。
- 3 運用はぶれない。2020年から同じ運用責任者が「上がった銘柄は売り、出遅れた優良株を買う」規律を守る。1999年設定、シリーズ純資産4.96兆円、116か月連続の資金純流入(6ページ)。
- 4 注意は「分配の速さ」。毎月150円(年1,800円)は基準価額の21.5%。基準価額を保つには年24%近い成果が必要で、今の水準がずっと続く前提は置きにくい。損益は「基準価額+受け取った分配金」で見る(7~8ページ)。
- 5 リスクは「株安+円高」。金融危機では-65.6%。ドル円・ユーロ円は過去30年でほぼ最も円安の水準にある(9ページ)。

### 付き合い方

運用は推せる。特に、AI中心の資産を持つ人の分散先として。毎月決算型は「受け取り」のための器なので、資産を増やしたいなら同じ運用の年1回決算型(NISA対象)を選ぶのが合理的。

#### ★ ここが推し

**15.7倍**

予想PER。利益は年16%伸びる予想、配当1.8%

**+4.8%**

AI・半導体株が急落した2026年6~7月の成績

**約10%**

AI中心のファンドとの銘柄の重なり。組み合わせ向き

#### ここに注意

**21.5%/年**

分配の払い出し  
(基準価額比)

**1.903%/年**

持っている間の費用  
(信託報酬)

# 世界の優良企業約50社に投資する、国内最大級の株式ファンド

1999年設定。英国の運用チームが、先進国の約2万社から「成長」「配当」「割安」の3つの視点で約50社を選びます。純資産は4兆1,864億円(9/25)。



表1 同じ運用で、分配の出し方が違うコース(為替ヘッジなし)

| コース       | 純資産(9/25) | 分配金               | NISA     |
|-----------|-----------|-------------------|----------|
| 毎月決算型(本書) | 4兆1,864億円 | 毎月150円(2020年1月から) | 対象外      |
| 年1回決算型    | 6,041億円   | 設定来なし             | 成長投資枠の対象 |
| 奇数月決算型    | 114億円     | 2か月ごと(9月は60円)     | 成長投資枠の対象 |

¥

費用は年1.903%(信託報酬)。持っている間ずっと差し引かれます。購入時手数料は3.3%以内。

\$

為替ヘッジなし。外貨がほぼ100%で、円高になると株が動かなくても基準価額は下がります。

%

これまでの成績: 分配金を再投資した場合、直近5年で+142%、設定来で+555%(8月末)。ただし直近5年は円安の追い風が大きい。

!

最大の下落: 金融危機のとき(2007年7月→2009年3月)に-65.6%。

## ポイント

株式の中身はどのコースも同じ。推しポイントやリスクの話(3~6・9~10ページ)は年1回決算型にもそのまま当てはまります。分配金の話(7~8ページ)だけが毎月決算型に固有です。

## 用語メモ

**基準価額**: 投資信託1万口あたりの値段。 **分配金**: ファンドの資産から支払われるお金。払った分だけ基準価額は下がる。 **予想PER**: 株価が今後1年の予想利益の何倍かを示す数字。低いほど割安。 **予想増益率**: アナリストが予想する利益の伸び。 **通算損益**: 今の基準価額 + 受け取った分配金 - 買ったときの基準価額。

# お金とモノの流れを押さえる企業。巨大ハイテクに頼らない

金融26%、鉄道・物流・航空エンジンなどのインフラ・資本財28%、生活必需品・ヘルスケアなど32%、テクノロジー13%。どれか1つに偏らない配分です。

図1 テーマ別の配分(2026年8月末の推定)

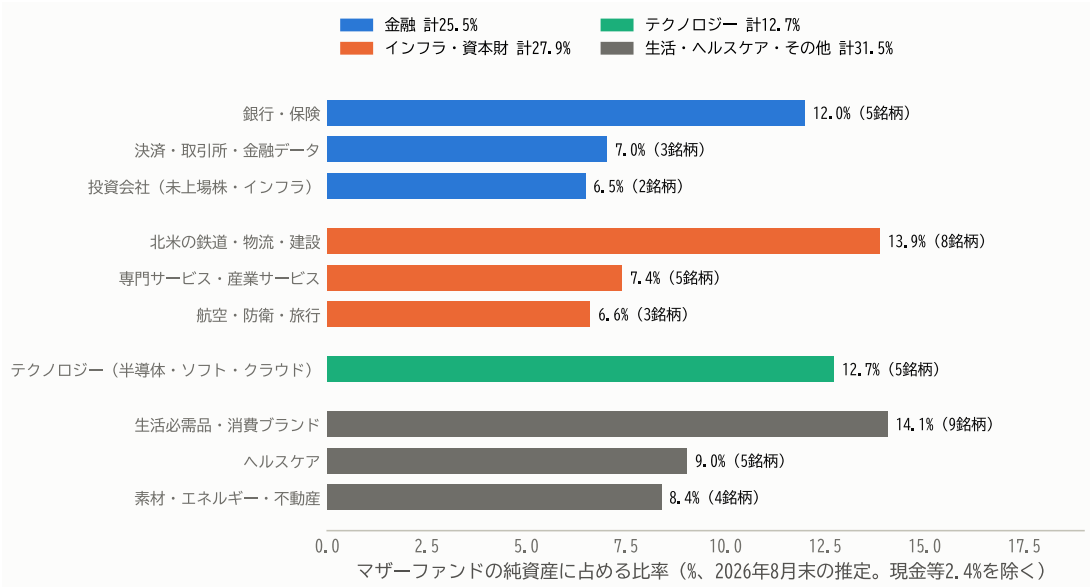


表2 上位5銘柄(8月末。上位10銘柄で36.6%)

| 銘柄                     | 国   | 何をしている会社か                 | 比率   |
|------------------------|-----|---------------------------|------|
| 3iグループ                 | 英国  | 欧州のディスカウント店「アクション」などに投資   | 5.0% |
| カナディアン・パシフィック・カンザス・シティ | カナダ | カナダ・米国・メキシコを1社でつなぐ唯一の貨物鉄道 | 4.4% |
| AIAグループ                | 香港  | アジア18の国・地域の大手生命保険         | 4.3% |
| ロールス・ロイス               | 英国  | 大型旅客機のエンジンと保守サービス         | 4.0% |
| マイクロソフト                | 米国  | 業務ソフトとクラウド                | 4.0% |

0%／23%

日本株／英国株の比率  
(米国は45%)

72%

時価総額300億ドル以上の  
中大型企業の比率

1.8%

組入れ全体の配当利回り  
(無配の銘柄も約13%)

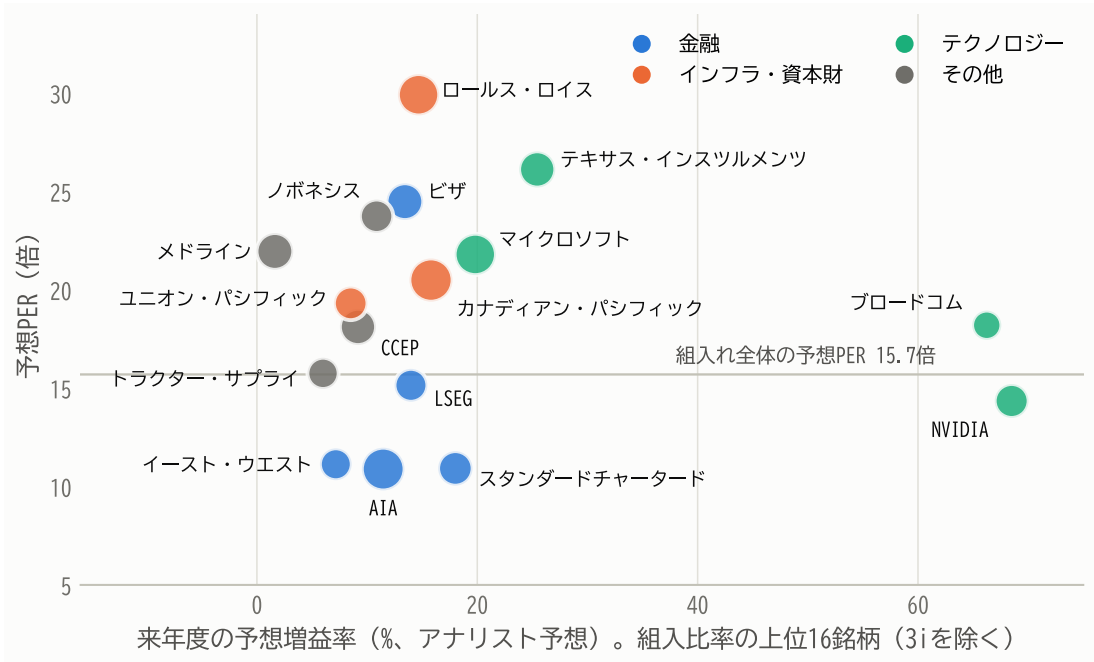
**推し** 替えのきかない優良企業を、割安なときに

組入れ企業の株価は予想利益の15.7倍。利益は来年度に約16%伸びる予想で、配当利回りは1.8%。成長の割に株価は割安です。

表3 上位銘柄の強みと株価の水準(予想はアナリスト予想、9/26)

| 企業            | 替えのきかない強み                    | 予想PER | 予想増益率 |
|---------------|------------------------------|-------|-------|
| カナディアン・パシフィック | 3か国を1社で結ぶ鉄道網。新たな線路網は事実上つくれない | 20.5倍 | +16%  |
| AIAグループ       | アジア最大級の生保網と専属代理店組織           | 10.9倍 | +12%  |
| ロールス・ロイス      | 大型機エンジンで約3分の1のシェア。保守収入が積み上がる | 29.9倍 | +15%  |
| ビザ            | 世界最大のカード決済網。自らは貸出をしない        | 24.5倍 | +13%  |
| スタンダードチャータード  | アジア・中東の国際銀行。中間配当+66%         | 10.9倍 | +18%  |
| 組入れ全体         | データのある92.6%で計算(3iを除く)        | 15.7倍 | +16%  |

図2 主要銘柄の予想PERと予想増益率(右下ほど「成長の割に割安」)



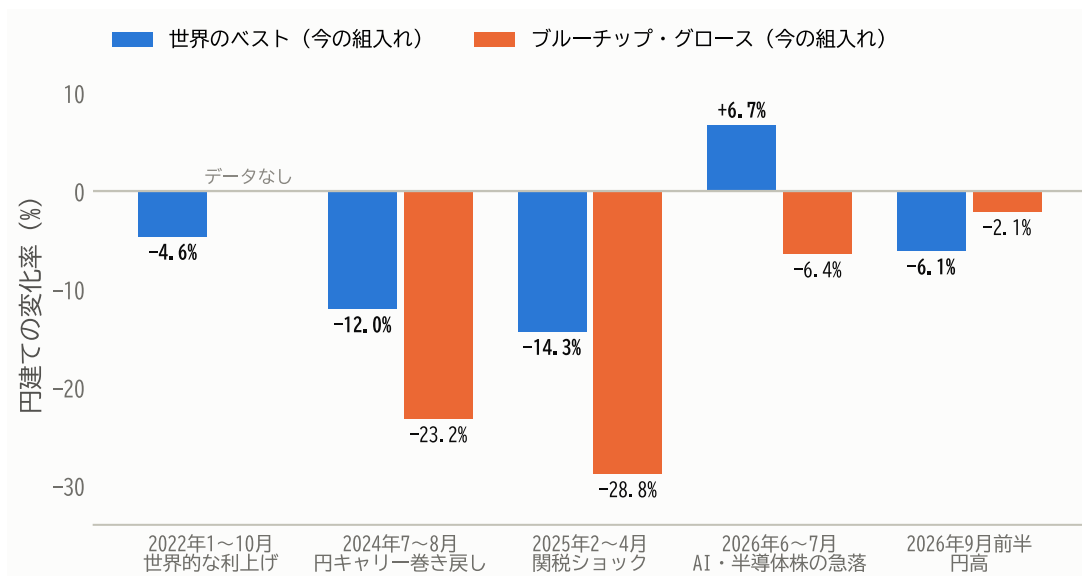
**ここが推し**

割高な銘柄を避ける運用なので、ブームの高値づかみが起きにくい。特に金融(予想PER13倍、配当2.4%)は安くて配当が厚い。注意:割安に見えて業績が悪化する「割安の罠」もある(アゼリス、LVMHなど)。最大銘柄の3iは株価が1年で-34%。

## 推し AIに偏らない分散。AI株の急落でもプラス

IT比率は11%。値動きの出どころも特定の分野に偏りません。AI・半導体株が急落した2026年6～7月も+4.8%でした。

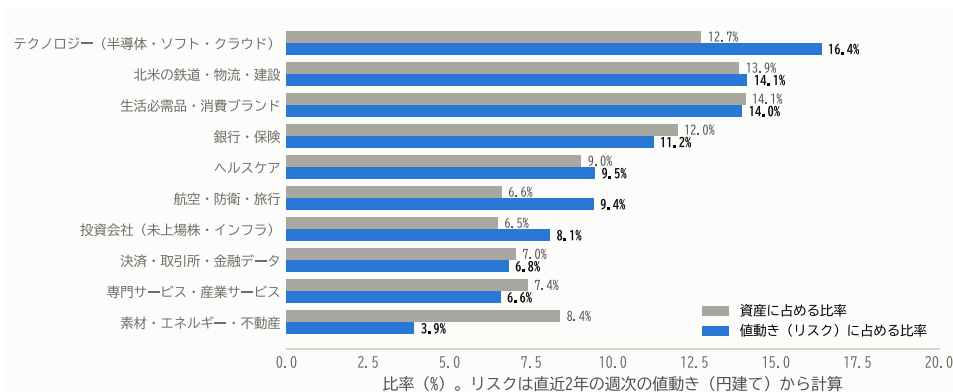
図3 今の組入れで見た、過去の急落局面での値動き(円建て)



各ファンドの今の推定組入れに、当時の株価と為替を当てはめた計算。世界のベストの実際の成績(同期間)は-6.9%、-12.5%、-16.8%、+4.8%、-6.0%。ブルーチップ・グロースはAI・米国成長株中心のファンド(2023年12月設定)。

- 1 AI中心のファンドと組み合わせやすい。**ブルーチップ・グロースとの銘柄の重なりは約10%。関税ショックの下げは約半分(-14%対-29%)。
  - 2 リスクが偏らない。**値動きに占める割合は、インフラ・資本財30%、生活・ヘルスケアなど27%、金融26%、テクノロジー16%。
  - 3 AIには「外側」から参加。**運用責任者は、AIの恩恵は取引所・情報サービス・医療物流・包装などにも広がると見ている(2026年9月、同じ戦略の英国の投資信託の年次報告)。
- !** 注意: AI関連株が上がり続ける局面では置いていかれやすい。株安と円高が重なる局面ではこのファンドも下がる(9月は-6.0%)。

図4 資産の比率と、値動き(リスク)に占める比率——ほぼ同じ割合で分かれている



**推し** ぶれない運用と、27年の実績

運用責任者は2020年から同じで、方針は5年間10期の運用報告書でほぼ同じ。「上がって割高になった銘柄は売り、業績が伸びているのに出遅れた優良株を買う」規律が守られています。

表4 最近の売買(2026年6～8月、月報)

| 動き      | 銘柄                                              | 読み取れること                 |
|---------|-------------------------------------------------|-------------------------|
| 利益確定    | デル(組入れ後に約3.6倍で全売却)、ロールス・ロイスとテキサス・インスツルメンツ(一部売却) | 値上がりして評価が高まった銘柄を手放す     |
| 新規・買い増し | ビザ、ICE(取引所)を新規。AIA、エリス、ユニバーサル・ミュージック、アムライズを買い増し | 業績が伸びているのに株価が出遅れた優良株を拾う |

表5 過去5年の売買の成功と失敗(株価の変化、現地通貨)

| 型         | 例                                        | 株価の変化         |
|-----------|------------------------------------------|---------------|
| 転換点を捉えた買い | ロールス・ロイス(2021/12→2026/6)、スタンダードチャータード(同) | +1,075%、+381% |
| 割高になる前の売却 | アクセンチュア、ユナイテッドヘルス(売却後)                   | -40%、-25%     |
| 早すぎた売却    | NVIDIA(2023年上期に売却→その後、2025年に再購入)         | +1,354%       |
| 割安の罠      | アゼリス、LVMH、トラクター・サプライ(2023/12→2026/6)     | -55~-30%      |

|                                                          |                                                                 |                                                      |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| <div>27年</div> <div>1999年の設定から。ITバブル崩壊、金融危機、コロナを経験</div> | <div>4.96兆円</div> <div>シリーズ純資産(8月末)。<br/>グローバル株アクティブ型で第1位</div> | <div>116か月</div> <div>連続の資金純流入<br/>(2017年1月から)</div> |
|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|

**ここが推し**

方針と運用者が変わらないので、どういう局面で強く、どういう局面で弱いかが予測しやすい。ブームに乗らず割高を避ける運用は、過熱が冷める局面で強みを発揮しやすい。注意:成長が続く銘柄を早く売りがち。規模や人気は将来の成果を保証しない。

## 損益は「基準価額＋受け取った分配金」で見る

基準価額は5年で9,605円から8,923円に下がりましたが、下がった分は分配金として手元に渡っています。5年前に買った人の通算損益は+85%です。

図5 基準価額と、受け取った分配金を足した価値(2021年7月に1万口を買った場合)

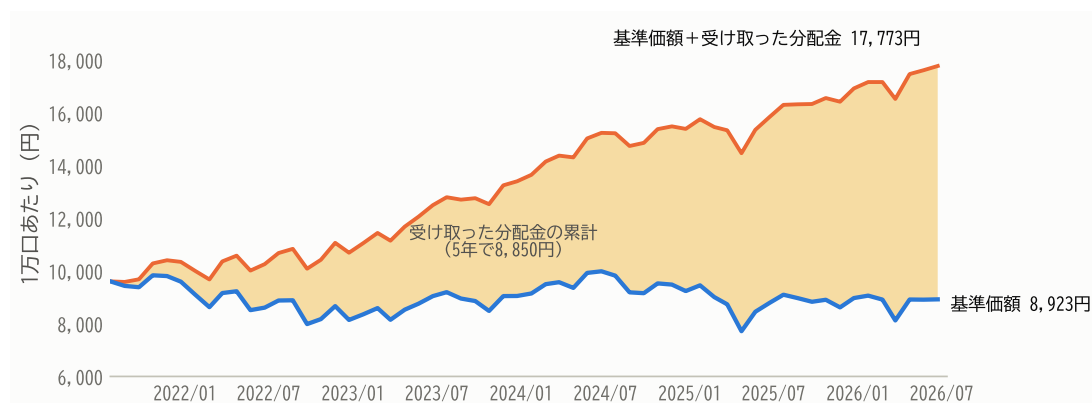


表6 買った時期別の通算損益(1万口、2026年6月23日時点、税・手数料前)

| 買った時期        | 買ったとき  | 今の基準価額 | 受け取った分配金 | 通算損益   |
|--------------|--------|--------|----------|--------|
| 5年前(2021年7月) | 9,605円 | 8,923円 | 8,850円   | +85.0% |
| 3年前(2023年7月) | 9,196円 | 8,923円 | 5,250円   | +54.1% |
| 1年前(2025年7月) | 9,099円 | 8,923円 | 1,650円   | +16.2% |

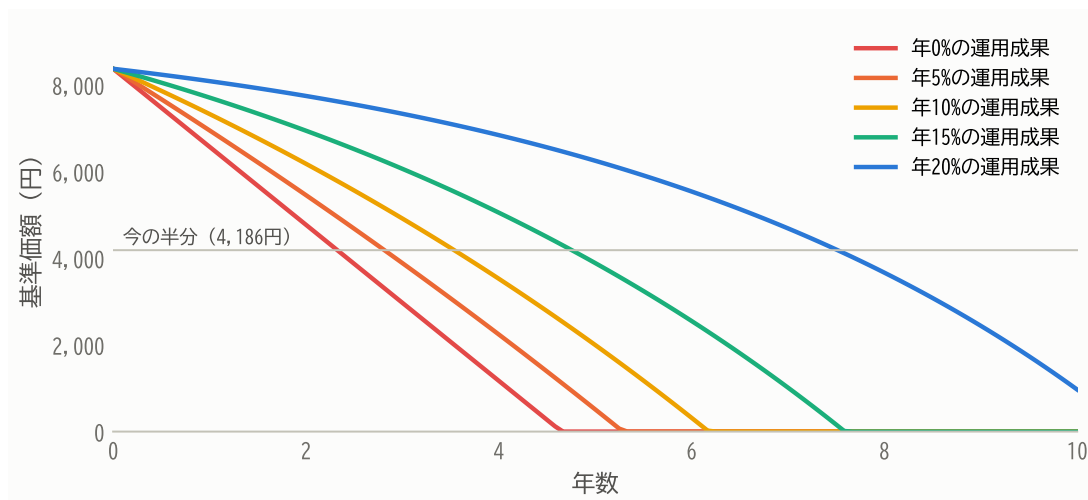
### ポイント

どの時期に買った人も、通算ではプラスです。ただし受け取った分配金はその後運用されないため、分配金を再投資していれば5年で+147%と、成果はさらに大きくなっていました。

## 今の分配は、運用成果を上回るペース

年1,800円の分配は基準価額(8,363円)の21.5%。基準価額を保つには年23.8%の運用成果が必要です。今の水準がずっと続く前提は置きにくいと考えます。

図6 毎月150円を払い続けた場合の基準価額(運用成果別の単純計算、8,372円から)



- 1 年10%の成果でも、約3年半で基準価額は半分になる計算。年15%でも約5年。
- 2 分配の原資は大きいですが、96%は会計上の項目(収益調整金)。基準価額の下落を防ぐものではない。
- 3 直近18か月の分配の約47%は、当期の収益以外から支払われた。
- 4 分配のたびに20.315%の税金(普通分配金)。NISAの対象外。

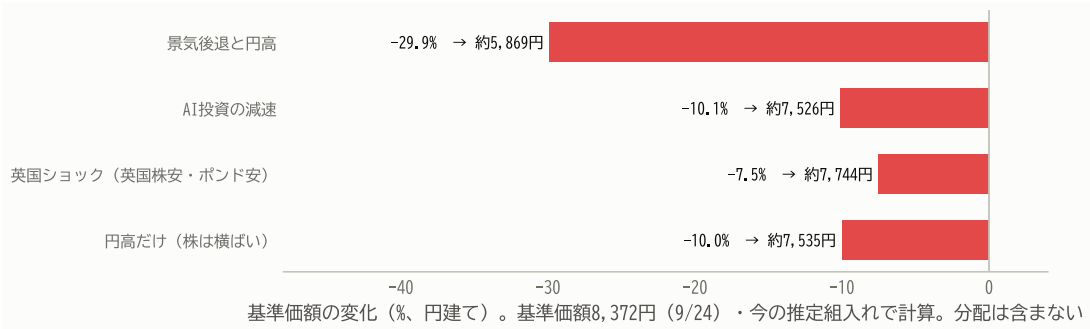
表7 コースの選び方(中身の運用は同じ)

| 目的            | 合うコース                                      |
|---------------|--------------------------------------------|
| 毎月の受け取りが必要    | 毎月決算型。分配額が見直される可能性を前提に、資金計画を立てる            |
| 資産を増やしたい      | 年1回決算型。分配をせず、運用成果がそのまま基準価額に反映。NISA成長投資枠の対象 |
| NISAで時々受け取りたい | 奇数月決算型(2か月ごと)。NISA成長投資枠の対象                 |

# 怖いのは「株安と円高が同時に来ること」

分野の偏りによるリスクは小さい一方、景気後退と円高が重なると大きく下がります。金融危機では-65.6%。今の外貨は歴史的な円安水準にあります。

図7 想定シナリオでの基準価額(9/24の8,372円から)



**-65.6%**

金融危機での下落  
(2007/7→2009/3)

**98%**

過去30年で今のドル円  
(157円)より円高だった割合

**23%**

英国株の比率。英国の財政  
不安とポンド安に注意

**約15%**

値動きの大きさ(年率)。  
株式としては中程度

表8 リスクの優先順位

| 重要度 | リスク           | 中身                       |
|-----|---------------|--------------------------|
| 高   | 分配による目減り      | 払い出しは基準価額の21.5%(8ページ)    |
| 高   | 景気後退と円高の同時発生  | 金融と資本財で約5割。想定では-30%      |
| 高   | 円高            | 外貨ほぼ100%。ドル円は円安側の上位2%の水準 |
| 中   | 英国・最大銘柄3iへの集中 | 英国23%。3iは株価が1年で-34%      |
| 中   | AI主導の相場での出遅れ  | IT11%。AI関連株が上がり続けると伸びにくい |

## 運用の将来性はある。受け取り方は目的で選ぶ

予想どおり年16%の増益でPERが変わらなければ、株式部分の成果は年+16%程度(現地通貨)。それでも毎月の分配(年23.8%相当)には届きません。

表9 3年のシナリオ(株式部分の年率、現地通貨、費用控除後)

| シナリオ | 前提                      | 年率   | 毎月決算型の基準価額        |
|------|-------------------------|------|-------------------|
| 強気   | 予想どおり年16%増益、PER15.7倍を維持 | +16% | 分配に届かず、ゆるやかに低下    |
| 中間   | 年10%増益、PER14倍、ドル円145円程度 | +6%  | 3年で3~4割低下する計算     |
| 弱気   | 景気後退で増益ゼロ、PER12倍、円高     | -9%  | 大きく低下し、分配の減額が現実的に |

### ★ この投資信託の押しポイント

1. 替えのきかない世界の優良企業50社(鉄道網、決済網、航空エンジン、取引所など)
2. 成長の割に割安: 予想PER15.7倍、予想増益率約16%、配当1.8%
3. AIに偏らない分散: AI・半導体株の急落局面でも+4.8%。AI中心の資産との組み合わせに向く
4. ぶれない運用と27年の実績: 同じ責任者・同じ方針。シリーズ4.96兆円、116か月連続の資金純流入

#### 毎月決算型が向く人

- 毎月の受け取りが必要(年金の補完など)
- 分配額の見直しを受け入れられる
- 株安と円高で2~3割の下落を受け入れられる

#### 年1回決算型などを先に考えたい人

- 資産を増やしたい、NISAで持ちたい
- 分配金を「利回り」と考えて生活費をまかなう
- 為替の変動を避けたい、費用を抑えたい

表10 これから確認したい数字

| 項目       | 今           | 注意したい動き                 |
|----------|-------------|-------------------------|
| 分配額      | 毎月150円      | 減額の告知                   |
| ドル円・ポンド円 | 約157円・約208円 | 150円・190円を割り込むような円高     |
| 英国の財政・金利 | 英10年債5.35%  | 10月28日の予算発表後のポンド安       |
| 最大銘柄3i   | 純資産の0.84倍   | 11月の半期決算でアクションの売上が一段と鈍化 |